

《横浜市感染症流行情報》

伝染性紅斑(リンゴ病)が流行しています

【伝染性紅斑(リンゴ病)とは】

患者からの飛沫、接触によりウイルス(ヒトパルボウイルス B19)が感染し、10~20日の潜伏期間の後、頬に紅い発疹(写真参照)が現れ、続いて手足に発疹がみられます。なお、頬に発疹が出現する7~10日くらい前に、感冒様症状などが見られることがあり、この時期に感染力が高くなっていますが、発疹が現れたときには感染力はほぼ消失しています。妊婦が感染すると、胎児の異常や流産を引き起こす可能性があります。**妊婦は**



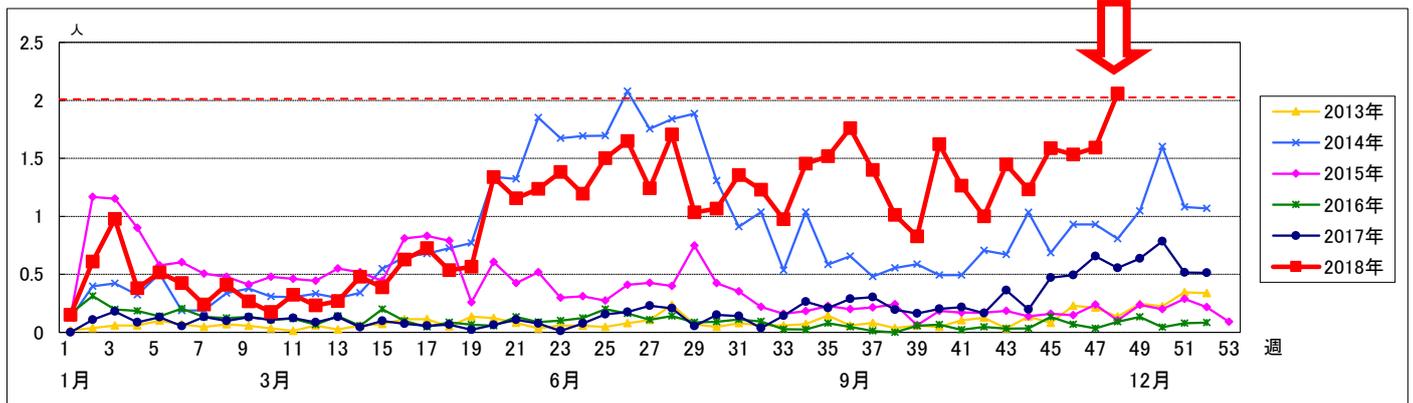
国立感染症研究所ホームページより

流行時期に感冒様症状の人に近づくことを避け、手洗いやマスク着用を励行して感染を出来るだけ防止し、万一感染した場合には、医療機関に相談し、胎児の状態を注意深く観察することが重要です。

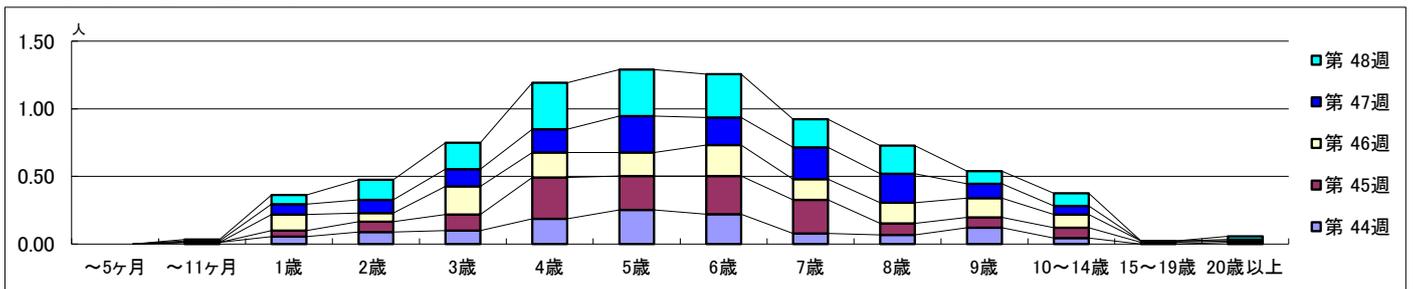
◆出典: [伝染性紅斑とは\(国立感染症研究所\)](#)

- **市内流行状況:** 定点あたりの患者報告数^{*}が、第48週(11月26日~12月2日)で2.06となり、警報発令基準(2.00)を上回りました。警報発令基準を上回ったのは2014年以来です。

^{*}定点とは、定期的に患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内94か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。



- **年齢別患者報告数:** 患者報告数は、3~8歳が中心となっています。



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463